

富岡鉄斎

1836年〜1924年。
京都府生まれ。
日本画家。儒学者。



大阪堺 大鳥神社大宮司の頃
明治11年(43歳)
清荒神清澄寺蔵

1836年、京都の法衣商十一屋伝兵衛の次男として生まれた富岡鉄斎は、幼い頃から国学や儒学を習いました。そして、幕末の動乱期には、勤皇思想に傾倒して国事に奔走する青年期を過ごします。

鉄斎が画の手ほどきを受けたのは19歳の頃。教養として学んだ南画は、当時漢詩文の素養ある人々に支持されていたものでした。その後は特定の流派に属することなく、先人の作品を広く見ることとほとんどを独学で学んだといえます。古典に影響を受けた彼は、自由で大胆な水墨と、色彩豊かな作品世界を作り上げたのでした。

また、30代から40代半ば頃までは、天理市の石上神宮や大阪の大鳥神社の神官を務めながら全国を行脚しています。その日々は「万巻の書を読み、万里の道を往く」とするもので、文人としての志を貫いた生活でした。

1881年、兄が亡くなったのを機に、故郷の京都へ戻ります。1897年には日本南画協会結成の創立に参加。各種展覧会の審査員を務めるなど、明治画壇での地位も確立していきました。しかし、自身は一般の展覧会には出品することなく、文人としての生活をひたすら送ったのでした。鉄斎のこの生き方から、最後の文人画の巨匠と呼ばれています。

石上神宮

天理山の辺の道沿い、大和の古き神々と出会う布留の杜。



め、数多くの社宝を伝えています。

境内を悠然と歩くニワトリは、戦後になって放された神社のマスコットの存在。今日も高々と時を告げています。

布留山の西北麓に鎮座する石上神宮は、物部氏の氏神として知られる古社で、古くは『古事記』や『日本書紀』にもその名が見られます。奈良朝より前に「神宮」の名を用いたのは、伊勢神宮とこの石上神宮だけです。もともと「禁忌地」と呼ばれる聖地を祀り、本殿を持たない古代信仰のようすを伝えるものでしたが、1874年に行われた発掘で禁忌地から布都御魂剣などが発見され、これに

を祀るために本殿が造られました。現在も撰社の出雲建雄神社拝殿や、剣から6本の枝が分かれる七支刀などの国宝をはじめ



鉄斎の下絵による版木で刷られた扇



■所在地
〒632-0014 天理市布留町384
TEL.0743-62-0900
■交通
JR・近鉄天理駅から徒歩1.5km
駐車場有(50台・無料)

在原業平

825年～880年。

平安前期の歌人。
平城天皇の孫。



平安時代を代表する歌人、在原業平。平城天皇の孫でありながらも、政治的には不遇の時期を過ごしたこともありました。しかし、絶世の美男と言われ、何人もの女性と親密な関係を示す和歌が残されています。どちらかといえば業平は、教養としての漢文学よりも、私的な恋ごころを和歌で表現することが得意だったようです。

彼の美貌と自由奔放で情熱的な生き方は、伝説を生み出しました。平安前期に成立した『伊勢物語』の主人公は、業平をモデルにしたといわれています。「昔、男ありけり」という冒頭句ではじまるその内容は、絶世の美男子の華麗な恋愛遍歴を描いた物語ものです。また、『古今和歌集仮名序』では、紀貫之によって「近き世にその名聞こえたる人」に挙げられた歌人6人、六歌仙のひとつと呼ばれました。

百人一首にも業平の歌「ちはやぶる神代もきかず龍田川からくれなるに水くゝるとは」があります。これは生駒山の東側を流れる竜田川の美しい紅葉の景色を詠んだものです。

業平が先祖の菩提を弔うために建てたのが、奈良市の不退寺です。業平ゆかりのこの寺には、彼を描いた在原業平朝臣画像が伝わっています。特別な期間のみの開帳ですが、伝説の美男子に会えるチャンスです。

在原神社

平安のブレザーボーイ・在原業平の伝承残る、『伊勢物語』や『筒井筒』ゆかりの神社。



西名阪自動車道路天理インター近くには在原神社があります。ここには在原業平とその父・阿保親王(平城天皇の皇子)が祀られています。元は在原寺があったところといわれ、今もその名を刻んだ石が在原神社に残っています。在原寺は明治時代の廃仏毀釈によって廃寺となった寺で、今その面影を残すのは神社の入り口に残る石碑のみになりました。

この在原神社には、筒井筒あづつにかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまにと歌に詠まれ、『伊勢物語』や謡曲で有名な筒井筒も残されています。4月26日に行われる業平まつりには、業平ゆかりの奈良市の不退寺からも僧侶が訪れます。またここから西へ、業平も通ったという業平道が延びています。



■所在地
〒632-0004 天理市標本町市場
TEL.0743-63-1001
(天理市観光協会)

■交通
JR・近鉄天理駅からJR奈良駅
行きバスで12分、国道標本下車、
徒歩100m
駐車場無

卑弥呼



100年代後期～200年代前半。
邪馬台国の女王。

『魏志倭人伝』には、3世紀代の倭国の女王は卑弥呼だと記されています。邪馬台国の女王としてその名を知られている卑弥呼ですが、現在のところ卑弥呼についての記録はこれにしか残されていません。

『魏志倭人伝』によると、倭国は代々男性が王位についていましたが、国内で争いが続くようになったため、邪馬台国の女性だった卑弥呼を王にたてたといわれています。卑弥呼がシャーマンのような能力に優れていたことと、邪馬台国が当時の30あまりあった倭国のなかで最も巨大でなおかつ体制も整っていたことが、彼女が選ばれた理由です。卑弥呼は鬼道と呼ばれる古い能力で人々を治め、国の乱れも鎮めたといわれています。神に仕える身として、卑弥呼は生涯を独身で通しました。しかも、ずっと宮殿に籠って生活をしていたので、彼女の姿を人々が目にするのはなかったと言います。

卑弥呼は国内での権力を強化する一方で、外交では魏の王朝へ朝貢をして、自己の地位を固めようとしました。239年、魏から「親魏倭王」に任命され、金印紫綬や銅鏡を受けています。亡くなった年は不明ですが、径約120mもの大きさの墓が見つかった100人が殉葬されたと伝わっています。

2009年、卑弥呼の宮殿跡の可能性がある遺跡が発見されました。今、桜井市は全国の考古学ファンの注目を集めています。

纏向遺跡

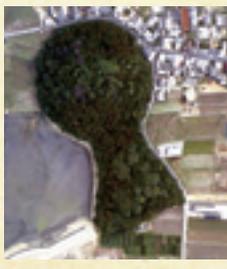


卑弥呼の宮殿？ 邪馬台国論争と古代のロマ
ンに胸躍る桜井周辺の遺跡と古墳群。

2009年11月桜井市の纏向遺跡で卑弥呼の宮殿跡ではないかと推測されるような、大がかりな建物と思われる遺構が発掘されました。時代はまさに3世紀前半～中頃の遺構で、この時代の謎が解き明かされていきそうです。

纏向遺跡は三輪山麓北西部に広がる3世紀の弥生時代末期から、古墳時代前期の遺跡を指します。その広がりにはJR巻向駅を中心とした半径2km程で、卑弥呼の墓といわれる箸墓や日本最古級の前方後円墳といわれるホケノ山古墳などが含まれます。しかし、この遺跡には一般

的な集落でみられる竪穴住居が少なく、この点では特異な性格の遺跡といわれています。近くには山の辺の道が通り、北には三角縁神獸鏡が大量に発見された天理市の黒塚古墳などがあります。



■所在地
桜井市巻向駅周辺
TEL.0744-42-6005
(桜井市埋蔵文化センター)
■交通
JR巻向駅から徒歩すぐ
駐車場無

安倍晴明



阿倍王子神社蔵

921年〜1005年。

摂津国阿倍野（現・大阪市阿倍野区）など生まれは諸説。平安時代の陰陽師。日本陰陽師の祖。

陰陽師とは、律令制の古代日本において

は官職の一つで、中国から伝来した陰陽五行思想に基づいた陰陽道によって

政治的判断を下していました。

なかでも、安倍晴明は平安時代の陰陽道の第一人者。式神を使って怨霊や悪鬼を封じたり、天文道を使って観測して予知を行うエキスパートでした。

921年に生まれた安倍晴明は、『今昔物語』によれば幼少から当時の陰陽道第一人者であった加茂忠行に弟子入りしており、その天才的な能力は早くに見込まれていました。忠行は自身の子である加茂保憲とともに、晴明に陰陽道のすべてを伝授したと言います。

晴明のあまりにすばらしい才能は、「信太伝説」も生みしました。和泉に住んでいた晴明の父は、信太明神参拝の際に一匹の白狐を助けます。するとその帰り道に葛の葉という名の絶世の美女に出会い、二人は結婚。かわいい男の子、童子丸が生まれました。ところがある日、童子丸の前で思わず白狐の姿を見せてしまった葛の葉は家を去り、代わりに童子丸に霊力を授けたのです。「信太伝説」は浄瑠璃としても知られており、晴明の名をさらに広めました。

晴明没後1000年以上が経ちます。2000年前後には、陰陽師ブームが起こり、映画や小説が作られました。しかし、一時的な人気ではなく、年中多くの人が訪れるのが桜井市にある安倍文殊院です。平成の今もそのパワーを求めて参拝客が絶えません。

安倍文殊院



如意宝珠



■所在地
〒633-0054 桜井市阿部645
TEL.0744-43-0002

■交通
JR・近鉄桜井駅から飛鳥資料館前行き、石舞台行きバスで約6分、安倍文殊院前下車、徒歩約5分
駐車場有(150台・有料)

仲麻呂、晴明の知恵を慕い、受験生のお参りが多い日本三大文殊の一つ。

「日本三大文殊」の一つといわれる安倍文殊院は、受験生たちに人気のお寺です。大化の改新の後左大臣となった安倍倉梯麻呂の創建と伝えられますが、子孫には遣唐使・安倍仲麻呂や陰陽師・安倍晴明を輩出しています。現在文殊院には晴明を祀る晴明殿がありますが、文殊菩薩の知恵と安倍一族の知恵に授かるうと善男善女の姿が多くみられます。またほけ封じの寺として知られ、熱心に参拝をされる年配者の姿もみられます。

木造騎獅文殊菩薩像と4体の脇侍像は鎌倉時代の快慶の作と言われ、重要文化財に指定されています。文殊菩薩は巨大な獅子にまたがり、高さ7m、日本最大の大きさです。境内には2基の古墳もあり、秋にはコスモスの寺として人気を集めています。

藤原鎌足

614年～669年。
大和高市郡（奈良県）生まれ。
7世紀の政治家。大化の改新の主導者。



談山神社蔵

飛鳥時代、藤原鎌足と蘇我入鹿の二人は、ともに秀才と呼ばれる青年でした。聖徳太子の死後、蘇我氏は大きな力を持ち、特に蘇我入鹿が政治の表舞台に立つてからは、実質的な最高権力者として政治を意のままに行うほどになりました。

そんな政治に不満を抱いたのが藤原鎌足です。彼は天皇を中心とする国家を目指して、密かに蘇我氏体制を倒そうと計画します。それが、645年に鎌足と中大兄皇子（なかのおえのおひ）が蘇我氏を倒し、政治の改革を進めようとした大化の改新です。

蘇我氏暗殺がまだ計画段階の頃、飛鳥の法興寺（今の飛鳥寺）で蹴鞠（けきま）会がありました。見物に行った鎌足が、そこで後の天智天皇となった中大兄皇子にまみえることができたのが、実行へのきつかけとなったと伝わっています。二人はその後、計画について多武峰の山中で談合を行ったので、後に、その山は「談（かた）い山」や「談所ヶ森」と呼ばれました。談山神社（たんざんじんじゃ）の名前の由来も、そこからきているとされています。

鎌足は藤原氏の祖ですが、生前は中臣鎌足を名乗っていました。藤原の姓となるのは臨終の際で、病床を見舞った天智天皇から姓を賜ったとされています。鎌足没後、長男定恵と次男不比等（ふひと）らは、父の追福のために多武峰に十三重塔を建立しました。これが談山神社のはじまりです。

談山神社

数々の伝説と紅葉に彩られ、浄土の美しさを体感する多武峰の十三重塔。

燃え立つような秋の紅葉に彩られた美しい十三重塔。室町時代建立の塔は、日本で唯一の木造十三重塔です。神社に十三重塔があるわけは、この神社が明治の廃仏毀釈の頃までは寺院だったことによりです。寺は藤原鎌足の息子定恵が父のために建立、摂津の阿武山古墳（あぶやま）といわれる鎌足の墓所から、縁が深い談山の人で本殿には神像が祀られています。



春秋2回、鎌足と中大兄皇子の故事にちなんだ古式ゆかしい蹴鞠（けきま）が有名ですが、10月の嘉吉祭（かきつさい）で見られる「百味の御食（ひゃくみのおんじき）」と呼ばれる神饌（しんぜん）は、芸術的なまでの美しさで特に知られています。なお社殿の裏手の御破裂山（ごはれつざん）は大事件のときには鳴動するといわれ、自然への畏敬の念はいつも多武峰の山中に息づいています。



■所在地
〒633-0032 桜井市多武峰319
TEL.0744-49-0001
■交通
JR・近鉄桜井駅から談山神社行きバスで約25分。終点下車、徒歩すぐ
駐車場有(300台・無料)

柿本人麻呂

600年代後半〜700年代初め。
万葉集の代表的歌人。



柳沢吉里筆 柳沢文庫蔵

賀茂真淵や契沖は、詠まれた歌の内容や仕事ぶりに反して、人麻呂は六位以下の下級役人として生涯を終えたと唱え、現在もそれが定説となっています。終焉の地も謎に包まれ多くの異説を生んでいます。

人麻呂の活躍は天武天皇のときに始まりました。持統天皇や文武天皇の行幸や、皇子の旅行にも従い、行先は近畿だけでなく、中国や九州にまで及んでいます。訪れた先々で歌を詠んだ人麻呂。彼の歌は雄大で重々しく、力強い魅力にあふれています。

人麻呂が歌人として出発した頃は、ちょうど口誦文学から記載文学への移行期でしたので、彼は文字によって歌を作った最初の歌人ともいえます。彼は新しい枕詞を多数創り出したり、序詞・対句・繰り返しなどの技法を使うなど、和歌の歴史においても大きな転換期をもたらしました。のちに彼は「歌聖」や「歌神」と呼ばれ、そして、奈良時代の笠金村や山部赤人、大伴家持らなど、多くの歌人に影響を与えました。

全国に人麻呂の歌碑は多く、宇陀市のかぎろひの丘万葉公園にも「ひむがしの…」で始まる有名な歌碑があります。

かぎろひの丘万葉公園

万葉の昔から人々を魅了する
燃え立つ「かぎろひ」が見える公園。



大宇陀観光協会提供

宇陀の阿騎野(宇陀市大宇陀区)にかぎろひの丘万葉公園と柿本人麻呂公園があります。古くからこの地を有名にしたのは、

ひむがしの野にかぎろひの立つみえてかへりみすれば月かたぶきぬという万葉集にある柿本人麻呂の歌でしょう。この歌は軽皇子(後の文武天皇)が阿騎野で狩りを行った時に詠われた歌です。軽皇子の雄々しさを詠った長歌の反歌として歌われたものですが、長歌とは一転して、宇陀の美しい風景を詠っています。

毎年、人麻呂がこの歌を詠んだとされる旧暦の11月17日に「かぎろひを見る会」が開催されています。厳冬の早朝、人麻呂や軽皇子が見たであろう暁焼けを待つひとときは古代ロマンの神秘を感じます。



■所在地
〒633-2166 宇陀市大宇陀区迫間25
TEL.0745-82-2457
(大宇陀観光協会)
■交通
近鉄榛原駅からバス大宇陀行まで
大宇陀高校前下車、徒歩600m
駐車場有(10台・無料)

空海



東寺蔵

774年〜835年。
讃岐国多度郡（現・香川県善通寺市）生まれ。
弘法大師。真言宗の開祖。

774年6月15日、香川県に生まれた

空海は、18歳で京都の大学に入り儒教の学問を学び、人民救済のための仏教に深く入っていました。その後、さらに

修業を積むため愛媛県石鎚山、奈良県金峰山など各地の霊所を巡ります。空海

という名は、この苦行の間に改名したもので、この頃すでに密教を学んでいたとも考えられています。804年、空海は31歳で唐・長安に渡りました。唐では最初にインドの僧般若三蔵について密教に必要な

梵語やインドの学問などを学び、その後、青龍寺の恵果の元で密教の伝授を受け、わずか8ヶ月で真言密教の第8祖を継ぐまでになります。

806年、帰国の際には膨大な密教の経典、曼荼羅などを持ち帰りました。高野山を密教修業の道場と定めて勅許を得て、真言宗の道場として伽藍造営がはじまったのが816年、空海の万民救済の思いが形になったのです。

嵯峨天皇、橘逸勢と並び、三筆としても知られる空海。唐へ渡る以前から全書体に堪能でしたが、さらに唐で磨きがかかり、重厚かつ表現力豊かな書になったと言われています。金剛峯寺、神護寺には国宝である彼の名筆が残されています。

女人禁制の高野山に対して、宇陀市の室生寺は女人高野として親しまれてきました。奥の院御影堂は大師堂とも呼ばれ、弘法大師を祀る各地の大師堂の中でも最も古いものです。

各地の大師堂の中でも最も古いものです。

室生寺



室生の山腹に築かれた、シャクナゲの香り優しい女人高野。

三重県との県境に近く、室生川沿いにある室生寺は、役小角が開き空海が中興したと伝えます。

その創始から山岳仏教の修験場として栄え、山麓から中腹にかけ堂宇が点在し、

山岳寺院に独特の伽藍配置がみられます。室生川沿いに建つ南大門から石段を上

がって金堂があり、鍵の手に曲がりながら境内を進めばやがて灌頂堂（本堂）、五重塔に至ります。

都から遠く離れていたことが幸いし兵火にも遭わず、平安時代初期の建造物や

仏像が数多く残されています。

室生寺の東には龍穴神社が祀られ、雨を司る龍王伝説の信仰がありました。境内はシャクナゲの名所としても知られ、花の季節には多くの観光客が訪れます。



■所在地
〒633-0421 宇陀市室生区室生78
TEL.0745-93-2003
■交通
近鉄室生口大野駅から室生寺行きバスで約15分。終点下車、徒歩100m
駐車場無（近隣民営駐車場・有料）

森野藤助

1690年～1768年。

森野吉野葛本舗10代目。

森野旧薬園をつくる。



吉野の山野には古代から葛が自生しています。今も吉野郡には国柄くくづという地名が残っていますが、自生の葛の根から葛粉を採って食べていたのが国柄に住む人々で、葛の名の由来にもなったと考えられています。葛粉はデンプン類のなかでも最高級のもので、中でも冬の寒さと豊富な地下水によって作られる吉野葛は、特に良質なものです。奈良では今も昔ながらの工法で吉野葛を作り続けています。

葛粉は添加物を一切含まない自然食品で、「奈良うまいもの」郷土料理に選ばれた「ごま豆腐」にも使われています。また、発汗・解熱・血行促進作用も知られており、平安時代から薬用としても価値のあるものとして珍重されてきました。

葛の精製を通じて植物、特に薬草に造詣ぞうげいが深かったのが、宇陀市で創業400年を越える森野吉野葛本舗10代目当主森野藤助です。当時の將軍徳川吉宗は諸国に薬草栽培を奨励しており、幕府による薬草採取旅行の際には藤助が随行しました。その範囲は近畿一円から北陸地方にまで広く、十数回にわたって薬草の採取や調査が行われました。

藤助は自宅の裏庭に随行の後に拝領した薬草6種と、自身が採取した薬草を栽培しました。これが森野旧薬園の始まりです。代々の当主が大切に育て、現在に至るまで森野薬草園は続いています。

森野旧薬園

宇陀の地につくられた、江戸の小石川植物園と肩を並べる日本最古の薬草園。



葛を扱う森野吉野葛本舗の店から、この森野旧薬園に入ることができました。この薬園の歴史は古く、江戸時代、漢方の薬学の盛んな時代にさかのぼり、東京にある小石川植物園に並ぶ、日本最古の薬草園として知られています。

葛を精製する工場を通り抜け、裏山に登ると、カタクリをはじめとする様々な薬草が所狭しと栽培されています。回遊式の庭園のように、薬園を巡れば、春には様々な薬草の可憐な花を見ることが出来ます。ここに植えられている薬草250種類はすべて歴代の森野家当主が育て護ってきたものです。森野家には薬園の資料館があり、藤助の薬草の写生画が残っています。藤助の名は代々受け継がれ、現在は20代目森野藤助氏がこの薬園を守っています。



■所在地
〒633-2161
宇陀市大宇陀区上新1880
TEL.0745-83-0002

■交通
近鉄榛原駅から大宇陀行きバスで17分、終点下車、徒歩200m
駐車場無

今井兵部

1500年代前期～中期
浄土真宗本願寺の僧侶。



をつくったのです。

織田信長が本願寺と対立すると、今井兵部も本願寺側に加担し、信長に対抗します。町の周囲に幅5mから7m、深さ2mもの環濠を掘って環濠城塞都市を形成しました。今井の郷民は、信長の降伏勧告を断り、明智光秀率いる織田軍と闘いましたが、1575年に和陸を結び、武装は解除、商業都市として存続できることとなります。このとき今井兵部は疎開しており、戻ったのは1582年でした。

今井町は自治都市として大坂や堺と関係を深め、豪商の町屋が並び、「海の堺、陸の今井」と呼ばれるほどの活気にあふれる町となりました。1634年には独自の紙幣「今井札」を発行し、町はさらに繁栄します。茶道・華道・能楽・和歌・俳諧なども盛んになり、文化的にも華やかな時代を迎えます。

信長、秀吉、家康に仕えてきた称念寺でしたが、1679年には「郷中並」扱いとなり、その後武士を返上した今井氏は積門に専念することになって、現在に至っています。

江戸時代の町並みが今も残る橿原市の今井町は、かつて、興福寺の荘園でした。室町時代後期には一向宗の勢力が強まり、天文年間の頃、本願寺の一門であった今井兵部は、一向宗の布教のために、称念寺を建立し、各地から商人などを呼び集め寺内町

今井町

現代の街なかにはぼつかりと生き続ける中世環濠集落と伝統的建物群。



今井町に一步踏み入れば、江戸時代にタイムスリップしたかのような町並みが続きます。今井町は称念寺の寺内町として栄えた町で、町中は18世紀の建築物が大半を占めています。称念寺をはじめ、今西家、上田家、音村家、河合家、高木家、豊田家、中橋家、旧米谷家の9棟の重要文化財の貴重な建物があり、他にも県指定文化財が3棟、市指定文化財が4棟あります。

昭和30～40年頃から、全国に先駆けて歴史的建造物の保存運動が始まり、伝統的な建造物のある町並み全体を保存するという条例が生まれました。そして住民の議論の結果、平成5年に重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。現在では、住民自ら町並み保存活動に取り組んでいます。



■所在地
〒634-0812 橿原市今井町
TEL.0744-22-1128
(今井町町並み保存会)
■交通
近鉄八木西口駅から徒歩300m
駐車場有(今井まちなみ交流センター華豊駐車場40台・無料)

お里・沢市

寛文年間1661〜1673年の人物設定。
「壺坂靈験記」の主人公夫婦。



高市郡高取町にある壺阪寺は、正式には南法華寺といい、本尊の十一面千手観音像は眼病に靈験あらたかな仏様として知られています。さらにこは、おしどり夫婦の感動的な物語の舞台でもあります。

今から300年以上前の寛文年間の頃、壺阪寺の麓にある夫婦が住んでいました。盲目の沢市と器量よしのお里です。沢市は琴や三味線を教え、お里は内職をしながら、貧しくも仲睦まじく暮らしていました。しかし、沢市にはひとつ心配事がありました。結婚して3年、毎晩寢床を抜け出して出かけるお里に、不貞があるのではないかと疑っていたのです。

ある日、沢市が聞いただと、お里は眼病に靈験があるという壺阪寺の観音様に毎日お参りに行っていたと話します。沢市は感謝しますが、お里を不憫にも思います。そして、彼女の幸せを願い、ひとり壺阪の谷に身を投げてしまい、それを知ったお里も後追いでしまふのでした。しかし、観音様の靈験による奇跡が起こり、お里の貞節と信心を讃えて二人を生き返らせ、沢市の日も開きました。

この夫婦愛の物語は、「壺坂靈験記」として浄瑠璃や歌舞伎に取り入れられ、人気曲となりました。浪曲「壺坂靈験記」では、「妻は夫をいたわりつつ、夫は妻に慕いつつ」が有名な一節です。境内に飾られている二人が使った杖を触ると、夫婦はさらに仲良くなると言われています。

壺阪寺

日本最大の平山城・高取城に近く、巨大な観音様に見守られた眼病封じの寺。



春、山吹やラベンダーに彩られる壺阪寺。高取の町を抜け山を登っていけば、巨大な石造の観音様が迫ってきます。壺阪寺の創建は703年、文武天皇の時代にさかのぼるといいます。平安時代に入ると、貴族たちの参拝も盛んになり、当代屈指の寺として栄華に包まれました。現存する三重塔は室町時代に再建されたものです。

戦国時代、伽藍は戦禍に巻き込まれましたが、高取城が築城された後は城とともに再び栄えていきました。

本尊十一面千手観音は、眼の観音様として信仰を集めています。エキゾチックな容姿が印象的な仏様です。

インドから運び込まれた大きな仏が目を引く境内ですが、ハンセン病救済活動など、社会福祉事業を行う寺としても知られています。



■所在地
〒635-0102 高市郡高取町壺阪3
TEL.0744-52-2016
■交通
近鉄壺阪山駅から壺阪寺行きバスで約10分、壺阪寺前下車すぐ
駐車場有(80台・有料)

阿波野青畝

1899年～1992年。
奈良県生まれ。
昭和の代表的俳人。



1899年2月10日、阿波野青畝は高市郡高取町に生まれました。本名は橋本敏雄で、11歳の時に母と死別。1918年、畝傍中学校(現・畝傍高校)を卒業しますが、幼児期からの難聴のために進学を諦め、八木銀行(現・南都銀行)へ就職します。進学

を断念しなければならなかった絶望感から、『万葉集』をはじめ読書にふける日々を送り、それがのちの俳句創作につながるようになります。

虫の灯に読み昂ぶりぬ耳しひ児

生家の庭には、進学を断念した頃の辛い心情を詠んだ句碑があります。

16歳の頃に書店で「ホトトギス」を買って求めた青畝は、畝傍中学の頃から郡山中学教師の原田浜人に俳句の指導を受けていました。高濱虚子とは浜人の家で出会っています。青畝は虚子を師と仰ぎ、虚子もまた青畝の耳の疾患が、俳句に哀感を漂わせていると評しています。

その後、若くして「ホトトギス」の課題句選者となり、水原秋桜子、山口誓子、高野素十と並んで、4人の名前から「4S」と呼ばれました。また、橿原市から創刊された「かつらぎ」を主宰。29歳の時に葛城を詠んだ句の句碑が中央公園に建てられました。

葛城の山懐に寝釈迦かな

郷土葛城の景色を詠んだ、青畝らしい高い抒情性が表現された句です。

土佐街道

堅固な屋敷堀になまこ壁も美しい、近世城下町の風情が漂う一筋の道。

奈良の地に「土佐」とは不思議です。かつて奈良で都づくりが盛んな頃、土佐から来て労役にあたった人々が故郷を懐かしんで名付けたといわれます。

町の中央を通るのが土佐街道です。高取城は山城で不便なことも多かったため、江戸時代、藩主も家臣もこの土佐街道沿いに居を構えました。そのため街道には武家屋敷や町家など、往時を偲ぶ建物が残されています。なかでも旧高取藩主・植村家長屋門は、重厚感あるなまこ壁が特徴的です。



の町にふさわしく薬草柄のタイルが貼られています。高取町並み保存の住民ボランティアを中心にイベントも開催され、街道はいまも人びとの活気が息づいています。



■所在地
〒635-0152
高市郡高取町上土佐 20-2
TEL.0744-52-1150
(高取町観光協会 夢創館)

■交通
夢創館へは、近鉄壱阪山駅から
徒歩 200m
駐車場有(10台・無料)

犬養孝

1907年～1998年。
東京都生まれ。万葉集の研究第一人者。
大阪大学名誉教授。「万葉風土学」を確立。



犬養孝は、中学卒業までを東京で暮らしました。『万葉集』との最初の出会いは、熊本の旧制第五高等学校に通っていた時です。美しい言葉、躍動的なリズム、表現力豊かな心情などに魅せられた犬養は、のちに『万葉集』の代表的研究者となるのです。

1932年に東京帝国大学を卒業後、神奈川県立の中学校教諭を経て台湾で台北高等学校の教授となります。終戦後は、内地に戻り関西で暮らしました。大阪大学で教える傍ら、『万葉集』の研究を続けたのです。犬養の研究スタイルは独特で、歌が詠まれた地を実際に訪れるものでした。ここから始まった「大阪大学万葉旅行之会」は、参加を希望する学生が多く、約50年間、犬養が亡くなった後も続けられたそうです。

犬養は、多くの論文や著書を残しています。学問としての研究はもちろんですが、彼の研究がユニークなのは一般の人々にも万葉集のすばらしさを広めようと努力したところです。特に「犬養節」はよく知られ、独自の節回しで万葉集を一首ずつ朗誦してその魅力を広めました。彼の影響は大きく、『天上の虹』を描いた漫画家里中満智子も、その研究に魅了されたアーティストの一人です。

『万葉集』を愛した犬養は、明日香村の名誉村民になりました。さらに犬養万葉記念館には、犬養揮毫の万葉歌墨書や直筆原稿などが展示されています。

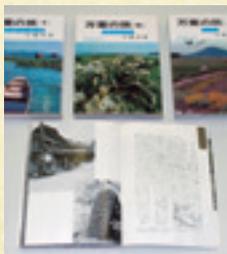
犬養万葉記念館

万葉歌を愛し、明日香の風景を愛した
犬養孝の、声、と足跡を展示。



犬養万葉記念館は、日本人の心の故郷と称される明日香村の景観保護に尽力した犬養孝を記念して、平成12年に旧南都銀行明日香支店を改装して造られました。まっくろな外壁の建物は落ち着きある蔵造り。入口すぐの小さなホールではビデオが上映され、独特の節回しの「犬養節」を聴くことができます。その他、館内には『万葉集』に詠われた全国各地の風景写真や、犬養孝愛用の品が展示されています。また犬養の『万葉集』に関する蔵書8000冊が保存されています。

彼は『万葉集』をこよなく愛し、明日香村の風景を愛していました。記念館は自然や人の心を叙情豊かに歌い上げた万葉歌の素晴らしさを多くのの人々に教えてくれる場所として、親しまれています。



■所在地
〒634-0111 高市郡明日香村岡1150
TEL.0744-54-9300

■交通
近鉄橿原神宮前駅東口または、飛鳥駅から飛鳥周遊バスで岡寺前下車、徒歩すぐ
駐車場有(10台・無料)